

# 調査の概要

## 【1 調査について】

### (1) 調査の目的

本町では男女が共にいきいきと暮らせる社会の実現のため、「第2次男女共同参画プラン」策定を進めています。本アンケート調査は、男女共同参画に関して町民の皆さまの意識や実態を把握し、プラン策定の資料とすることを目的にしています。

### (2) 調査の設計

- ① 調査対象 阿久比町在住の20歳以上の男女
- ② 抽出方法 無作為抽出
- ③ 調査方法 郵送
- ④ 調査期間 平成28年5月2日～6月30日

### (3) 回収結果

- ① 配布数 1,000人（男性500人、女性500人）
- ② 回収数 453人（男性188人、女性258人、無回答7人）

### (4) 報告書の見方

- ・ 回答率は、小数第2位を四捨五入したため、合計が100%にならない場合があります。
- ・ 複数回答を認めたものについては、その項目を選んだ人が回答者全体に占める割合を表しており、その比率の合計は100%を超えます。
- ・ 一人の対象者にひとつの回答のみを認めた間に複数項目を選んだ回答は「無回答」に含めています。
- ・ 以下を参考資料としています。

内閣府	平成26年度	「女性の活躍推進に関する世論調査」
愛知県	平成26年度	「第3回 県政世論調査」
阿久比町	平成23年度	「男女共同参画住民意識調査」

## 【2 回答者の属性】

### (1) 性別

男性	女性	無回答	総数
188人	258人	7人	453人
41.5%	57.0%	1.5%	100.0%

※前回（平成23年調査）結果

男性	女性	無回答	総数
235人	257人	0人	492人
47.8%	52.2%	0.0%	100.0%

### (2) 年齢

20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答	総数
38人	83人	65人	64人	109人	86人	8人	453人
8.4%	18.3%	14.3%	14.1%	24.1%	19.0%	1.8%	100.0%

### (3) 就業状況

	男性		女性		総数	
勤め人	116人	61.7%	119人	46.1%	235人	51.9%
自営業	20人	10.6%	9人	3.5%	29人	6.4%
無職（家事専業）	15人	8.0%	114人	44.2%	129人	28.5%
無職（学生、その他）	37人	19.7%	13人	5.0%	50人	11.0%
無回答	0人	0.0%	3人	1.2%	10人	2.2%
総数	188人	100.0%	258人	100.0%	453人	100.0%

### (4) 結婚状況

未婚	結婚している （事実婚を含む）	離別	死別	無回答	総数
45人	367人	12人	19人	10人	453人
9.9%	81.0%	2.6%	4.2%	2.2%	100.0%

### (5) 配偶者の就業状況

勤め人	自営業	無職（家事専業）	無職（学生、その他）	無回答	総数
205人	27人	94人	38人	3人	367人
55.9%	7.4%	25.6%	10.4%	0.8%	100.0%

「共働き」世代は、結婚している人全体の63.3%を占めています。



# 調査結果の分析

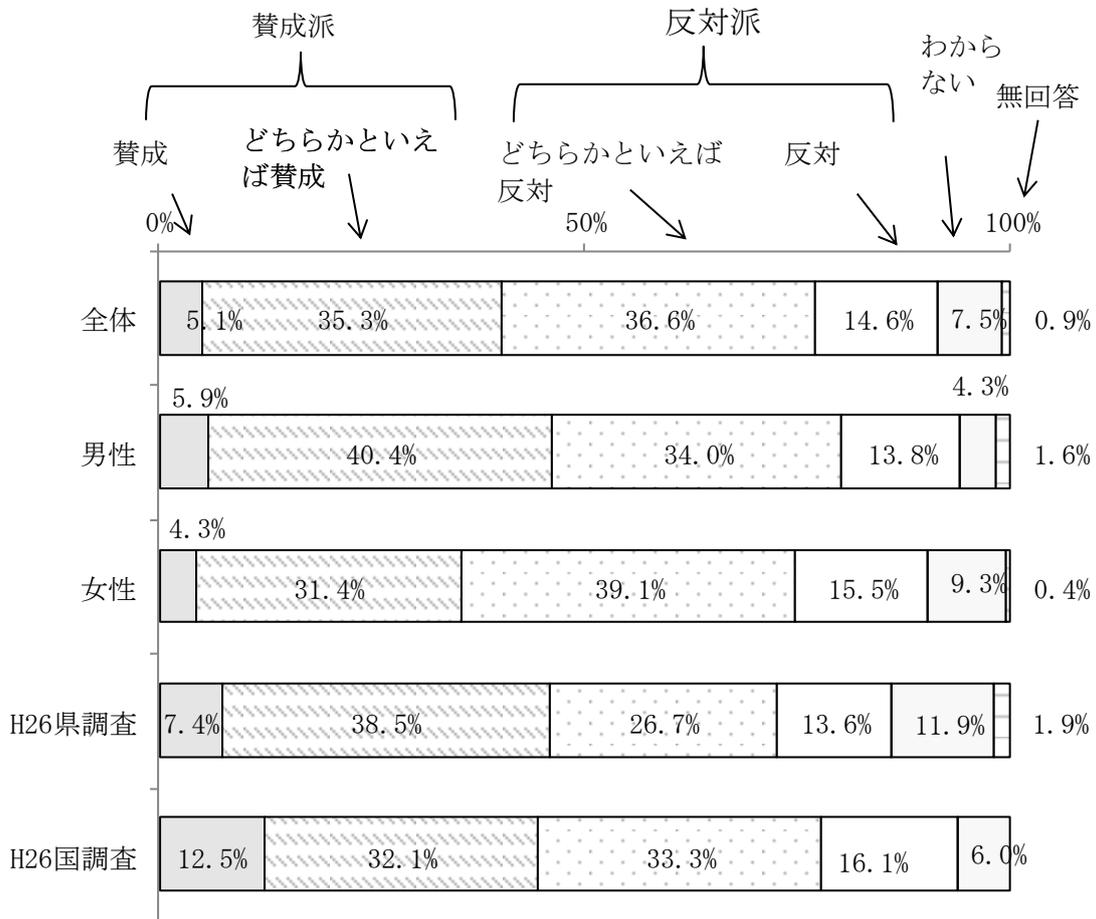
# 【1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考えについて】

## 1-1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」の賛否について

問 1 (1) あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、どう思いますか。(単回答)

依然として、賛成派はあるものの、国や県調査よりもその回答者割合は低くなりました。女性や若い世代の方が、反対派が多い傾向にあるとうかがえます。

(注意) この章の「賛成派」は、「賛成」・「どちらかといえば賛成」を回答した人を、「反対派」は、「反対」・「どちらかといえば反対」を回答した人を指します。



	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない	無回答	総計
全体	5.1%	35.3%	36.6%	14.6%	7.5%	0.9%	100.0%
男性	5.9%	40.4%	34.0%	13.8%	4.3%	1.6%	100.0%
女性	4.3%	31.4%	39.1%	15.5%	9.3%	0.4%	100.0%
20代	2.6%	23.7%	42.1%	23.7%	7.9%	0.0%	100.0%
30代	4.8%	31.3%	43.4%	12.0%	8.4%	0.0%	100.0%
40代	6.2%	29.2%	36.9%	18.5%	6.2%	3.1%	100.0%
50代	1.6%	31.3%	51.6%	7.8%	6.3%	1.6%	100.0%
60代	1.8%	38.5%	36.7%	17.4%	5.5%	0.0%	100.0%
70代以上	11.6%	47.7%	17.4%	12.8%	9.3%	1.2%	100.0%
H26県調査	7.4%	38.5%	26.7%	13.6%	11.9%	1.9%	100.0%
26年県 男性	8.5%	42.5%	25.4%	10.8%	11.1%	1.7%	100.0%
26年県 女性	6.1%	35.4%	28.2%	15.8%	12.9%	1.5%	100.0%
H26国調査	12.5%	32.1%	33.3%	16.1%	6.0%	-	100.0%
26年国 男性	14.2%	32.3%	32.0%	14.5%	7.0%	-	100.0%
26年国 女性	11.2%	32.0%	34.2%	17.4%	5.1%	-	100.0%

全体

	賛成		反対
町	40.4	<	51.2
県	45.9	>	40.3
国	44.6	<	49.4

男性

	賛成		反対
町	46.3	<	47.8
県	51.0	>	36.2
国	46.5	=	46.5

女性

	賛成		反対
町	35.7	<	54.6
県	41.5	<	44.0
国	43.2	<	51.6

○本町では、「反対」派回答者割合は 51.2%、「賛成」派回答者割合は 40.4%となっており、「反対」派が「賛成」派を 10.8 ポイント上回りました。

一方、全国では、「反対」派（49.4%）が、「賛成」派（44.6%）を上回り、県では、本町や国の結果と逆転し「反対」派（40.3%）が「賛成」派（45.9%）を下回っています。

○本町では、「反対」派回答者割合は、女性（54.6%）が男性（47.8%）よりも高くなっています。

また、本町男性をみると、「反対」派回答者割合（47.8%）が「賛成」派（46.3%）

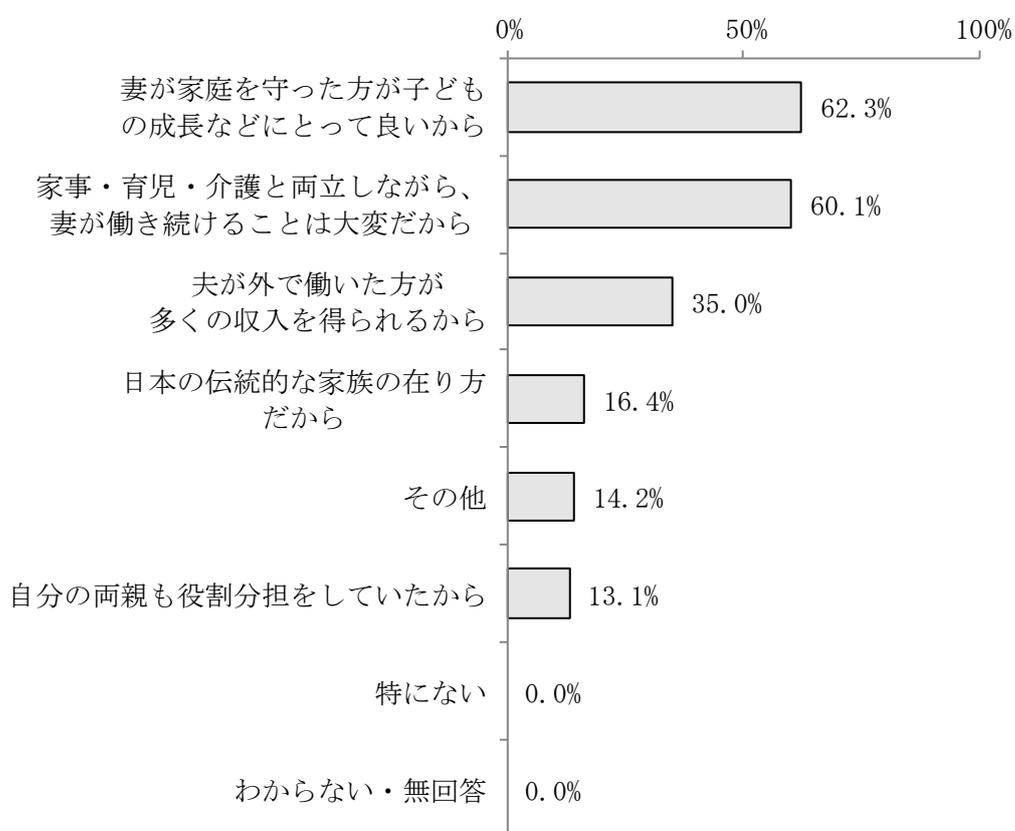
を上回っています。

○世代で比べると、「反対」派回答者割合は20代でも最も高く、「賛成」派は70代以上で最も高くなりました。

○これらのことから、本町においても依然として固定的な性別役割分担の考えに賛成する人はいますが、国や県に比べその割合は低くなっています。また、「反対」派は、女性や若い世代で多い傾向にある事がうかがえます。

## 1-2 賛成理由

(2) (1)で「賛成」、「どちらかといえば賛成」と答えた方にお聞きします。それはなぜですか。(複数回答)



○最も回答の多かった理由は、「妻が家庭を守った方が子どもの成長などにとって良いから (62.3%)」でした。次に、「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だから (60.1%)」、「夫が外で働いた方が多くの収入を得られるから (35.0%)」の順となりました。

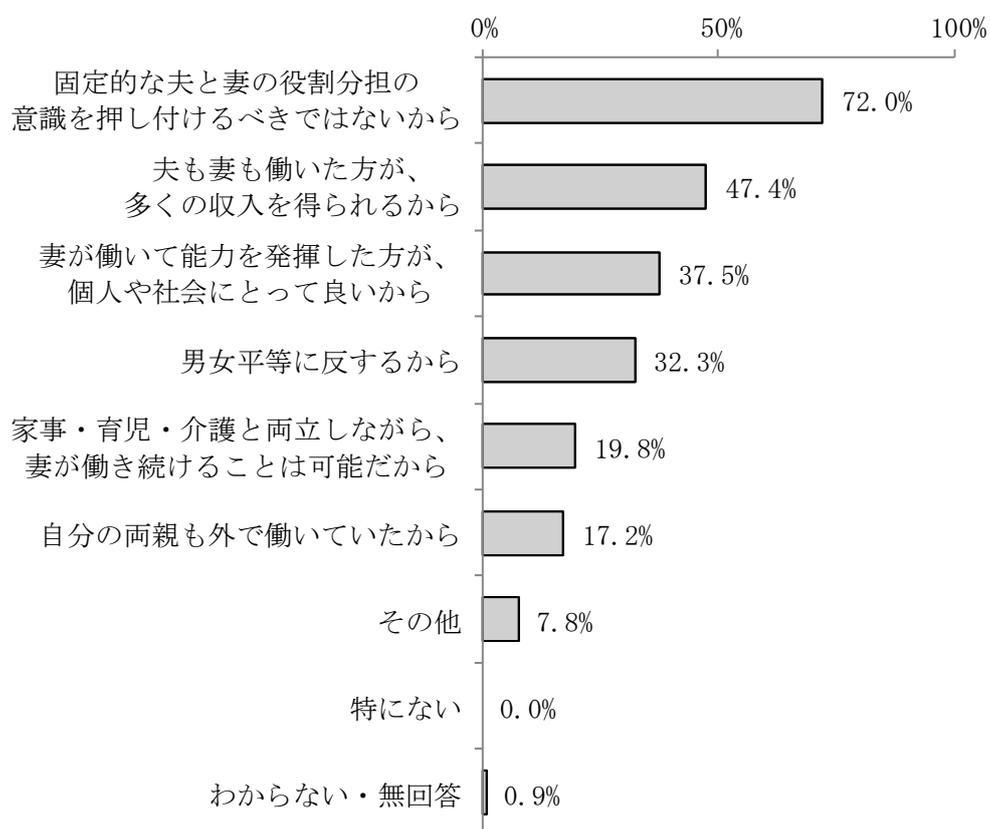
○その他で寄せられた意見

意見の内容	件数
女性（妻）が家庭にいる重要性	14
個人の自由	4
男性の家庭参画の難しさ	2
その他	6
合計	26

- ・子どもが小さいうちは特に、寄り添っていてあげたいから。
- ・夫も家事等と仕事を両立するのは大変だから。

### 1-3 反対理由

(3) (1) で「反対」、「どちらかといえば反対」と答えた方にお聞きします。それはなぜですか。（複数回答）



○最も回答の多かった理由は、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押し付けるべきではないから（72.0%）」でした。次に、「夫も妻も働いた方が、多くの収入を得られるから（47.4%）」、「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いから（37.5%）」、「男女平等に反するから（32.3%）」の順となりました。

○その他で寄せられた意見

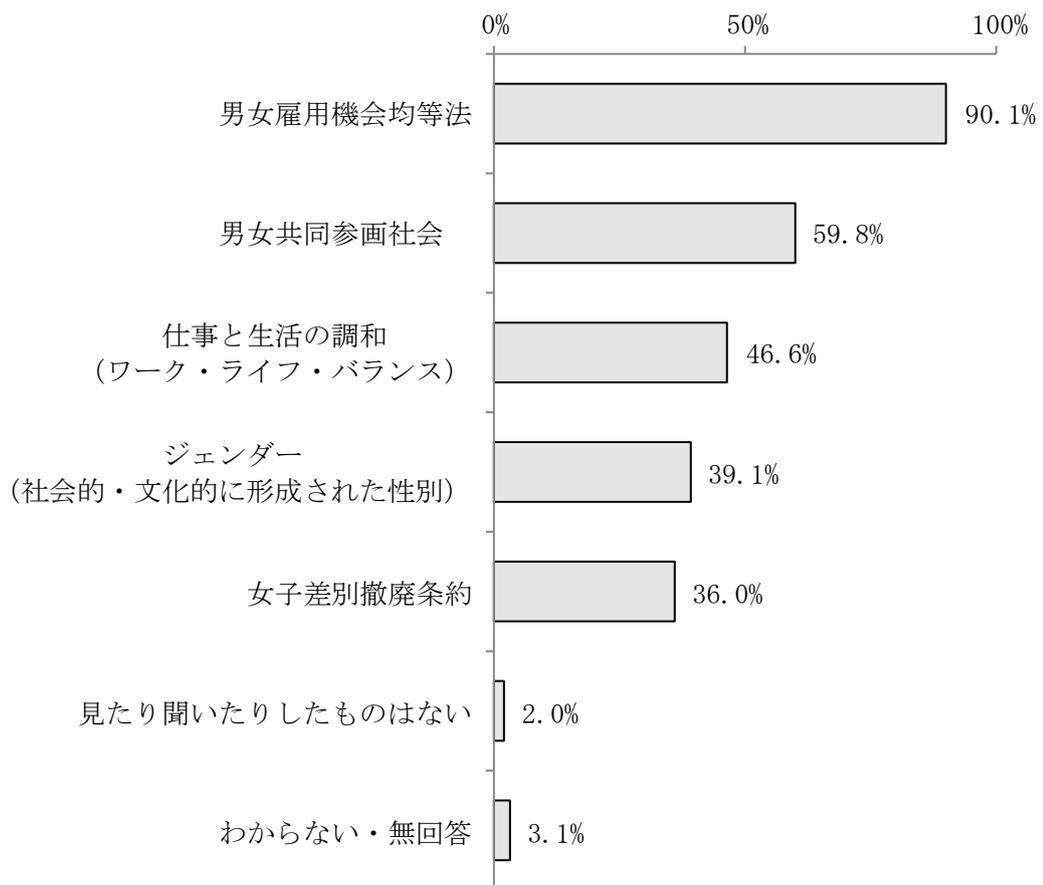
意見の内容	件数
個人の自由	8
社会に出る重要性	4
その他	6
合計	18

- ・それぞれの家族が成り立っているならそれでいい。
- ・妻も社会に出て、色々な人、考えに接してほしい。

## 【2 男女共同参画に関する言葉の認知度】

問 2 これらの言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるもの全てに○印をつけてください。

「男女雇用機会均等法」の認知度は非常に高くなっていますが、ワーク・ライフ・バランスなど男女共同参画に関する重要語の認知度はまだ十分に浸透していないことがうかがえます。



	男女雇用機会均等法	男女共同参画社会	仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス)	ジェンダー (社会的・文化的に形成された性別)	女子差別撤廃条約	見たり聞いたりしたものはない	わからない・無回答
全体	90.1%	59.8%	46.6%	39.1%	36.0%	2.0%	3.1%
20代	97.4%	73.7%	44.7%	65.8%	55.3%	0.0%	2.6%
30代	95.2%	42.2%	49.4%	53.0%	36.1%	2.4%	2.4%
40代	92.3%	63.1%	38.5%	43.1%	32.3%	1.5%	0.0%
50代	90.6%	60.9%	43.8%	45.3%	28.1%	1.6%	6.3%
60代	88.1%	61.5%	49.5%	25.7%	30.3%	1.8%	1.8%
70代以上	82.6%	69.8%	50.0%	24.4%	43.0%	3.5%	5.8%
平成23年調査	78.3%	-	35.3%	41.6%	-	-	-

※H23 調査は「知っている」、「ある程度知っている」の回答数を集計しました。

最も回答者割合が高い言葉は、「男女雇用機会均等法」(90.1%)でした。その次に、「男女共同参画社会」(59.8%)、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」(46.6%)、「ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)」(39.1%)の順となっています。

年代別でみると、1語句を除き、20代の回答者割合が最も高くなっています。

さらに、本町の平成23年調査と比べると、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の認知度は11.3ポイント増加しましたが、ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)は2.5ポイント減少しています。

### 【3 DVやセクハラについて】

問3 あなたは次のハラスメントを受けたことがありますか。

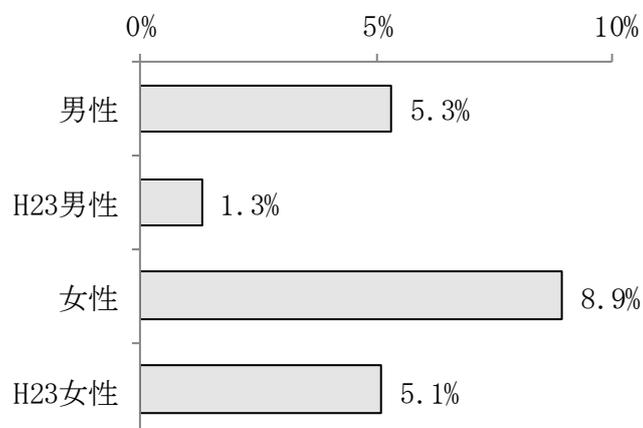
DVを受けたことがあると答えた人は、前回調査(平成23年度)より増加し、全体で7.3%でした。セクハラを受けたことがあると回答した人は全体で9.5%で、女性の方が被害が多いことがうかがえます。

#### 3-1 ドメスティックバイオレンス (DV) について

	はい	いいえ	わからない	無回答	総計
総数	7.3%	83.0%	3.3%	6.4%	100.0%
H23総数	3.3%	95.1%	-	1.6%	100.0%
男性	5.3%	86.2%	2.7%	5.9%	100.0%
H23男性	1.3%	96.6%	-	2.1%	100.0%
女性	8.9%	80.6%	3.9%	6.6%	100.0%
H23女性	5.1%	93.8%	-	1.2%	100.0%

※H23 調査の選択肢には、「わからない」という項目はありませんでした。

#### DVを受けた経験がある(はい)と答えた人



前回調査(平成23年)と比べると、DVを受けたことがあると回答した人(「はい」と回答した)の割合は、男性、女性ともに増加しています。その割合は女

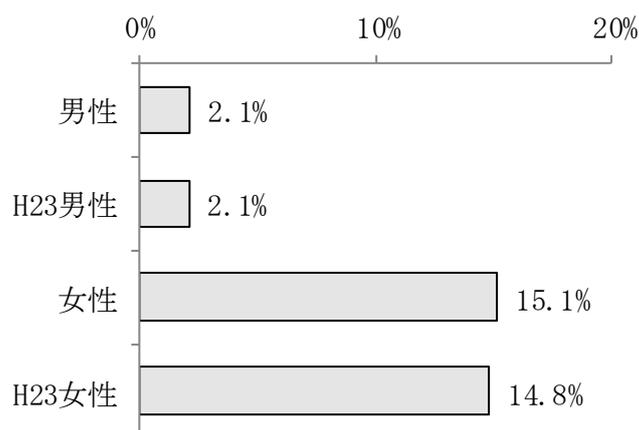
性（8.9％）が男性（5.3％）よりも上回っています。さらに「わからない」を選択した人、無回答の人が全体で9.3％いるため、結果に現れていない被害者がいることも推測されます。

### 3-2 セクシュアルハラスメント（セクハラ）について

	はい	いいえ	わからない	無回答	総計
総数	9.5%	78.8%	3.5%	8.2%	100.0%
H23総数	8.7%	88.8%	-	2.4%	100.0%
男性	2.1%	87.8%	2.1%	8.0%	100.0%
H23男性	2.1%	94.9%	-	3.0%	100.0%
女性	15.1%	72.1%	4.7%	8.1%	100.0%
H23女性	14.8%	83.3%	-	1.9%	100.0%

※H23 調査の選択肢には、「わからない」という項目はありませんでした。

#### セクハラを受けた経験がある（はい）と答えた人



セクハラを受けたことがあると回答した人（「はい」と回答した）の割合は女性（15.1％）が男性（2.1％）より7倍以上高くなっており、女性の方が被害に遭いやすいことがうかがえます。さらに「わからない」を選択した人、無回答の人が全体で11.2％いるため、結果に現れていない被害者がいることも推測されます。

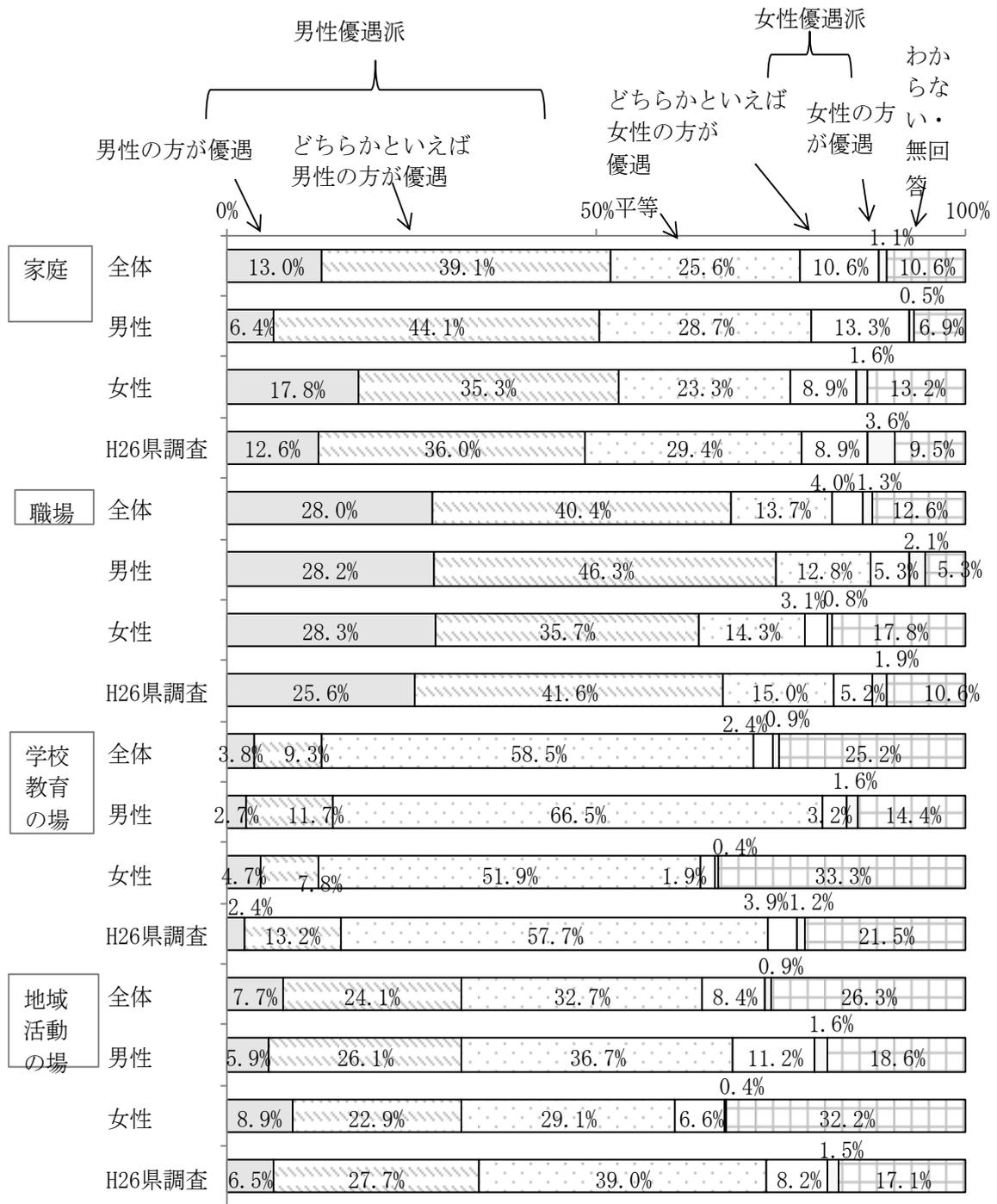
#### 【4 男女の地位の平等感について】

問 4 あなたは、次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの気持ちに近い番号それぞれ 1 つに○印をつけてください。「家庭生活」、「職場」、「学校教育の場」、「地域活動の場」

「職場」は多くの方が、「家庭生活」は60代を頂点に世代の高い人ほど「男性が優遇されている」と感じる人が多いという結果が出ました。

一方「学校教育の場」は「男女共に平等」と捉える人が多いことがうかがえます。

(注意) この章の「男性優遇派」は、「男性が優遇されている」・「どちらかといえば男性が優遇されている」を回答した人を、「女性優遇派」は、「女性が優遇されている」・「どちらかといえば女性が優遇されている」を回答した人を指します。



		男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	女性の方が優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	わからない・無回答	総計
家庭生活	全体	13.0%	39.1%	25.6%	10.6%	1.1%	10.6%	100.0%
	男性	6.4%	44.1%	28.7%	13.3%	0.5%	6.9%	100.0%
	女性	17.8%	35.3%	23.3%	8.9%	1.6%	13.2%	100.0%
	20代	13.2%	15.8%	39.5%	13.2%	5.3%	13.2%	100.0%
	30代	7.2%	33.7%	32.5%	19.3%	2.4%	4.8%	100.0%
	40代	12.3%	30.8%	33.8%	15.4%	0.0%	7.7%	100.0%
	50代	21.9%	43.8%	23.4%	4.7%	0.0%	6.3%	100.0%
	60代	13.8%	53.2%	18.3%	4.6%	0.0%	10.1%	100.0%
	70代以上	11.6%	39.5%	16.3%	10.5%	1.2%	20.9%	100.0%
	H26県調査	12.6%	36.0%	29.4%	8.9%	3.6%	9.5%	100.0%
職場	全体	28.0%	40.4%	13.7%	4.0%	1.3%	12.6%	100.0%
	男性	28.2%	46.3%	12.8%	5.3%	2.1%	5.3%	100.0%
	女性	28.3%	35.7%	14.3%	3.1%	0.8%	17.8%	100.0%
	20代	28.9%	52.6%	13.2%	2.6%	2.6%	0.0%	100.0%
	30代	28.9%	43.4%	13.3%	9.6%	1.2%	3.6%	100.0%
	40代	27.7%	44.6%	18.5%	4.6%	1.5%	3.1%	100.0%
	50代	29.7%	34.4%	23.4%	3.1%	0.0%	9.4%	100.0%
	60代	29.4%	41.3%	12.8%	0.9%	1.8%	13.8%	100.0%
	70代以上	25.6%	30.2%	4.7%	3.5%	1.2%	34.9%	100.0%
	H26県調査	25.6%	41.6%	15.0%	5.2%	1.9%	10.6%	100.0%
学校教育の場	全体	3.8%	9.3%	58.5%	2.4%	0.9%	25.2%	100.0%
	男性	2.7%	11.7%	66.5%	3.2%	1.6%	14.4%	100.0%
	女性	4.7%	7.8%	51.9%	1.9%	0.4%	33.3%	100.0%
	20代	7.9%	2.6%	68.4%	7.9%	5.3%	7.9%	100.0%
	30代	3.6%	7.2%	59.0%	2.4%	0.0%	27.7%	100.0%
	40代	7.7%	4.6%	69.2%	3.1%	1.5%	13.8%	100.0%
	50代	6.3%	10.9%	64.1%	0.0%	0.0%	18.8%	100.0%
	60代	0.9%	15.6%	55.0%	1.8%	0.9%	25.7%	100.0%
	70代以上	1.2%	9.3%	44.2%	2.3%	0.0%	43.0%	100.0%
	H26県調査	2.4%	13.2%	57.7%	3.9%	1.2%	21.5%	100.0%
地域活動の場	全体	7.7%	24.1%	32.7%	8.4%	0.9%	26.3%	100.0%
	男性	5.9%	26.1%	36.7%	11.2%	1.6%	18.6%	100.0%
	女性	8.9%	22.9%	29.1%	6.6%	0.4%	32.2%	100.0%
	20代	10.5%	18.4%	36.8%	7.9%	0.0%	26.3%	100.0%
	30代	7.2%	15.7%	30.1%	9.6%	1.2%	36.1%	100.0%
	40代	7.7%	23.1%	43.1%	9.2%	1.5%	15.4%	100.0%
	50代	7.8%	26.6%	32.8%	7.8%	0.0%	25.0%	100.0%
	60代	8.3%	33.0%	26.6%	9.2%	0.0%	22.9%	100.0%
	70代以上	5.8%	23.3%	31.4%	7.0%	2.3%	30.2%	100.0%
	H26県調査	6.5%	27.7%	39.0%	8.2%	1.5%	17.1%	100.0%

○「家庭生活」についてみると、「男性優遇派」回答者割合（52.1%）が最も高く、さらにこの割合は女性（53.1%）が男性（50.5%）を上回りました。

20代は全世代の中で「平等」回答者割合が最も高く、さらに「男性優遇派」が最も低くなっており、比較的不平等感が低い結果となりました。その一方で、60代までは世代が上がるにつれ、「男性優遇派」の回答者割合が高くなる結果となりました

○「職場」についてみると、今回調査した4場面の中で「男性優遇派」回答者割合（68.4%）が最も高く、比較的不平等感が強い傾向にあると推測されます。「男性優遇派」回答者割合は、男性（74.5%）、女性（64.0%）ともに高くなっており、世代で比べると20代が最も高くなりました（81.5%）。

○「学校教育の場」についてみると、「平等」回答者割合（58.5%）が今回調査した4場面の中でも最も高くなりました。性別、年齢別でもそれは保たれています。

○「地域活動の場」についてみると、「男性優遇派」（31.8%）と「平等」（32.7%）回答者割合が拮抗しています。

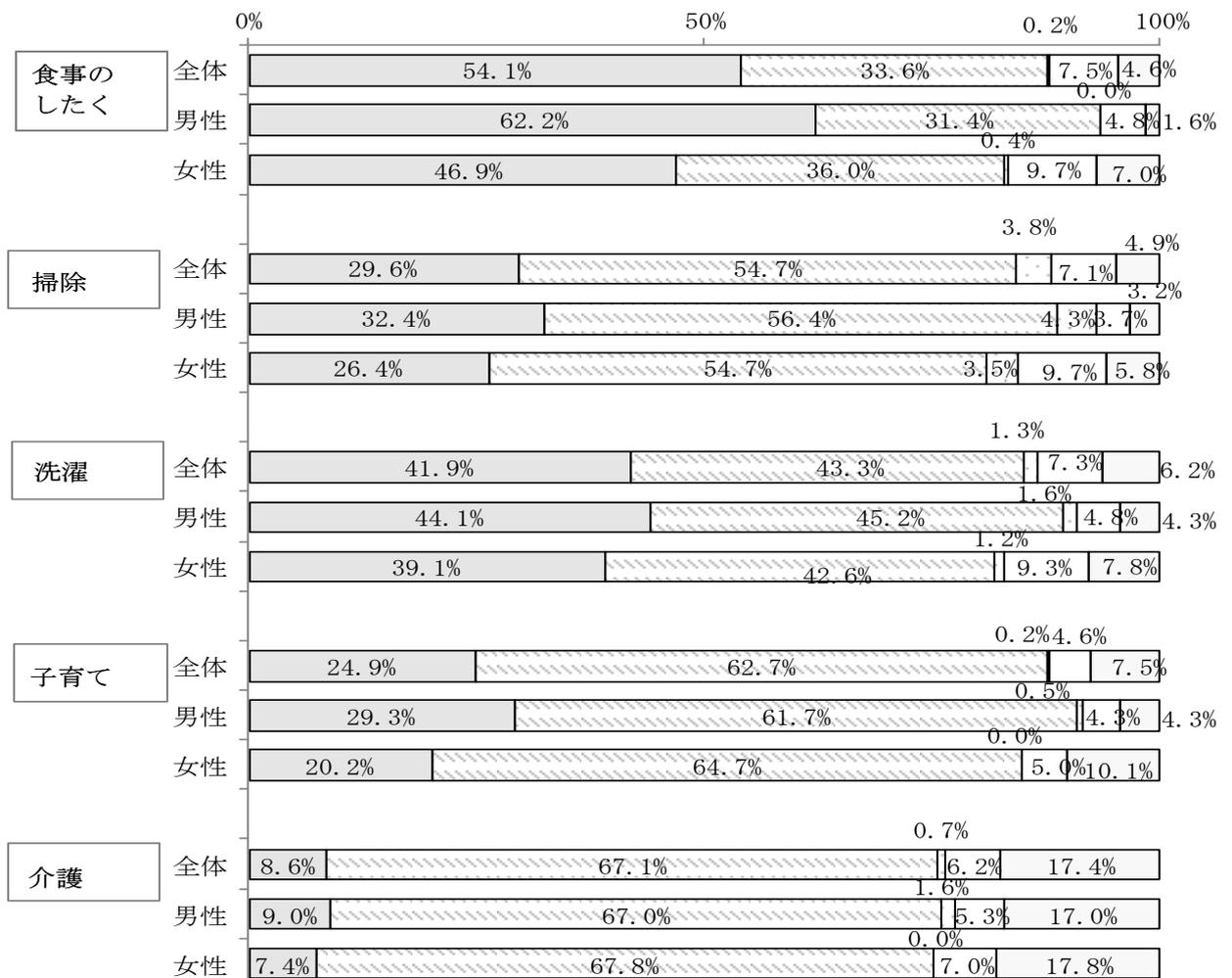
## 【5 家庭での夫婦の役割分担について】

「食事のしたく」は妻に、「掃除」や「洗濯」は夫婦同程度を理想とする人が多いことがうかがえます。「子育て」「介護」は夫婦同程度を理想とする人が比較的多いこともうかがえます。

結婚している人の現実をみると、「掃除」や「洗濯」は妻が担う場合が多く、理想と現実の間でギャップがでているようです。

### 5-1 夫婦の役割分担の理想について

問5(1) 全ての方にお聞きします。次にあげる内容の夫婦の役割分担について、あなたの理想を教えてください。1から5までそれぞれ1つに○印をつけてください。「食事のしたく」、「掃除」、「洗濯」、「子育て」、「介護」



□主に妻の役割 □夫と妻と同程度 □主に夫の役割 □その他 □分からない・無回答

		主に妻の役割	夫と妻と同程度	主に夫の役割	その他	分からない・無回答	総計
食事のしたく	全体	54.1%	33.6%	0.2%	7.5%	4.6%	100.0%
	男性	62.2%	31.4%	0.0%	4.8%	1.6%	100.0%
	女性	46.9%	36.0%	0.4%	9.7%	7.0%	100.0%
掃除	全体	29.6%	54.7%	3.8%	7.1%	4.9%	100.0%
	男性	32.4%	56.4%	4.3%	3.7%	3.2%	100.0%
	女性	26.4%	54.7%	3.5%	9.7%	5.8%	100.0%
洗濯	全体	41.9%	43.3%	1.3%	7.3%	6.2%	100.0%
	男性	44.1%	45.2%	1.6%	4.8%	4.3%	100.0%
	女性	39.1%	42.6%	1.2%	9.3%	7.8%	100.0%
子育て	全体	24.9%	62.7%	0.2%	4.6%	7.5%	100.0%
	男性	29.3%	61.7%	0.5%	4.3%	4.3%	100.0%
	女性	20.2%	64.7%	0.0%	5.0%	10.1%	100.0%
介護	全体	8.6%	67.1%	0.7%	6.2%	17.4%	100.0%
	男性	9.0%	67.0%	1.6%	5.3%	17.0%	100.0%
	女性	7.4%	67.8%	0.0%	7.0%	17.8%	100.0%

○「食事のしたく」については、「主に妻の役割」と回答した人の割合が最も高く、男性（62.2%）が女性（46.9%）よりも上回っています。その一方で、「夫と妻と同程度」と回答した人の割合は、女性（36.0%）が男性（31.4%）よりも上回っています。このことから、食事のしたくは妻（女性）が担うことを理想とする人が多い一方で、女性の中には夫婦同程度を希望する人も少なくないことがうかがえます。

○「掃除」については、「夫と妻と同程度」と回答した人の割合（54.7%）が最も高く、「洗濯」については、「主に妻の役割」と「夫と妻と同程度」と回答した人の割合（41.9%、43.3%）は、同程度となりました。

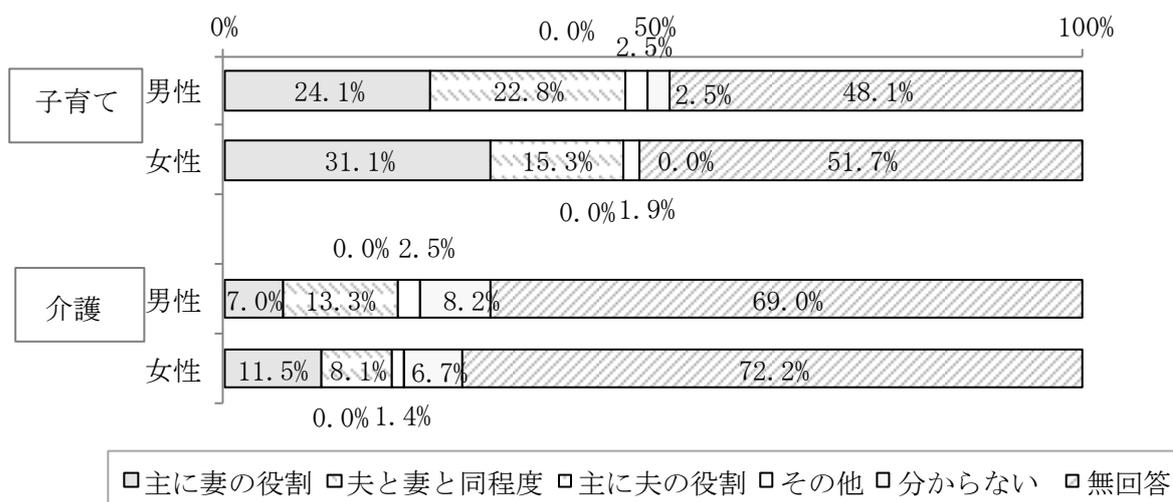
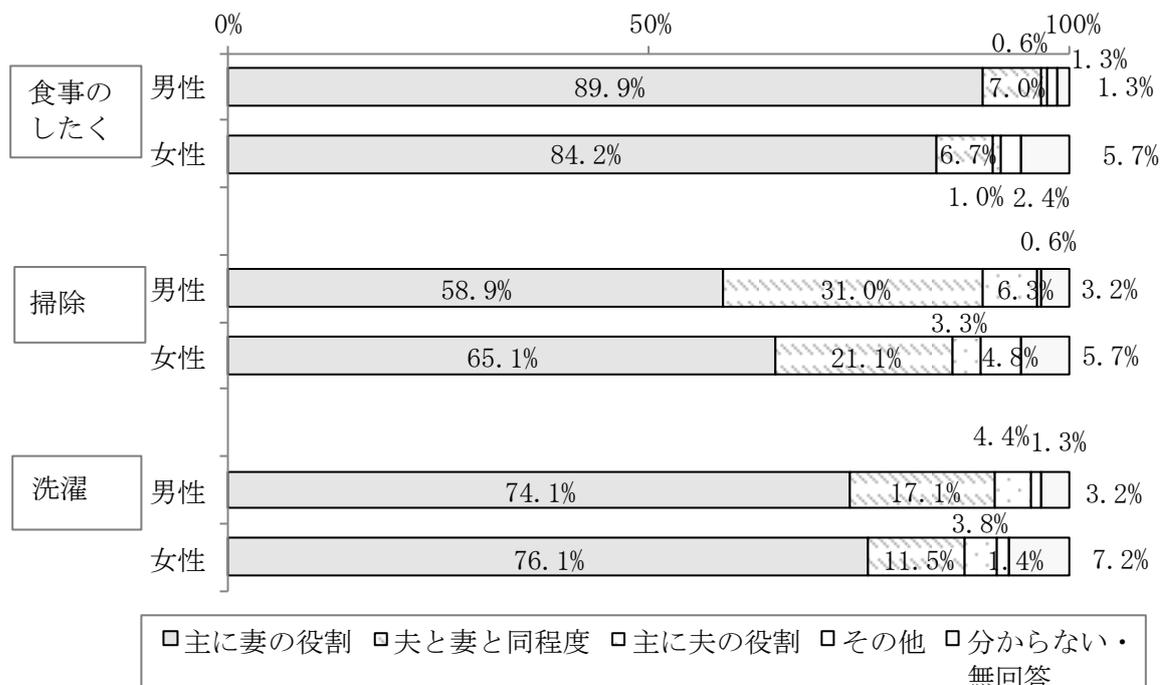
○「子育て」、「介護」については、「夫と妻と同程度」と回答した人の割合がいずれも6割を超えています。

## 5-2 結婚している人の家庭での夫婦の役割分担について

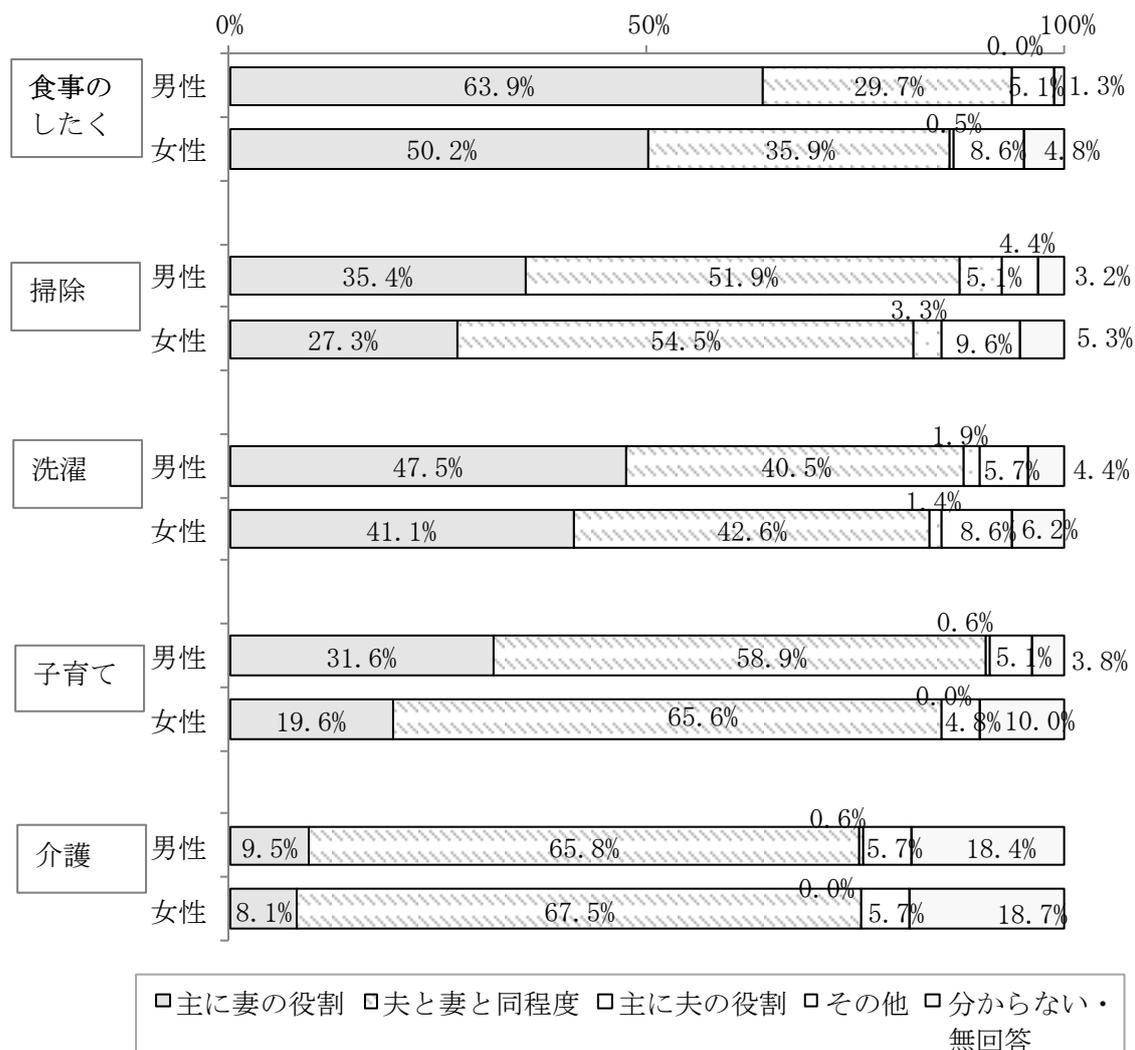
(2) 「現在結婚している方（又は事実婚の方）」にお聞きします。

あなたの家庭では、次にあげる内容の夫婦の役割分担はどのようになっていますか。1から5までそれぞれ 1 つに○印をつけてください。

### 現実（結婚している人）



## 理想（結婚している人）

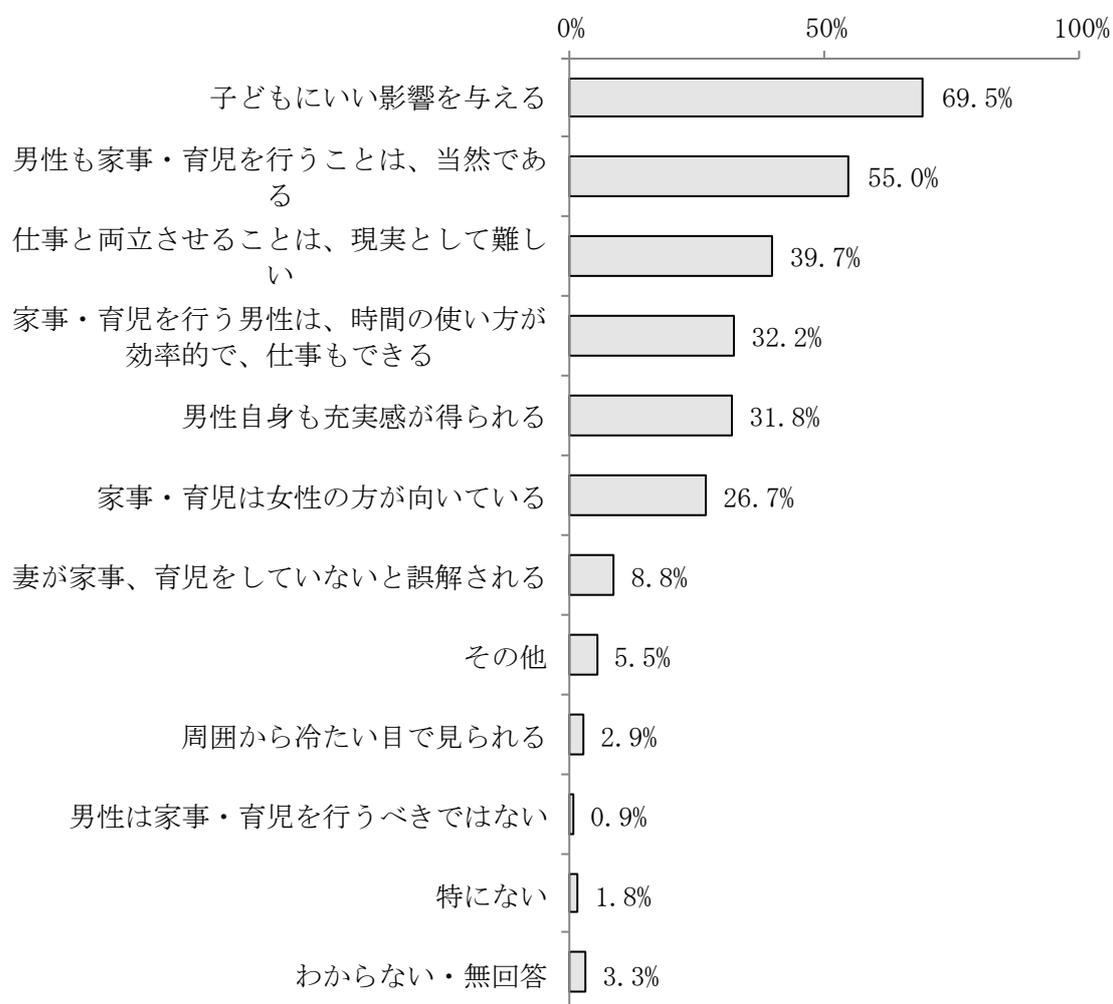


「食事のしたく」、「掃除」、「洗濯」の現実の夫婦の分担状況はいずれも、「主に妻の役割」と回答した人の割合が最も高くなりました。

その一方で、これらの家事を担う妻（女性）側の理想をみると、「夫と妻と同程度」と回答した人の割合は、「食事のしたく」は35.9%、「掃除」は54.5%、「洗濯」は42.6%となっています。しかし、現実の家事状況では、「夫と妻と同程度」と回答した人の割合は、「食事のしたく」は6.7%、「掃除」は21.1%、「洗濯」は11.5%となっており、理想と現実の間で隔たりがあることがうかがえます。

## 【6 男性が家事・育児を行うことについてのイメージ】

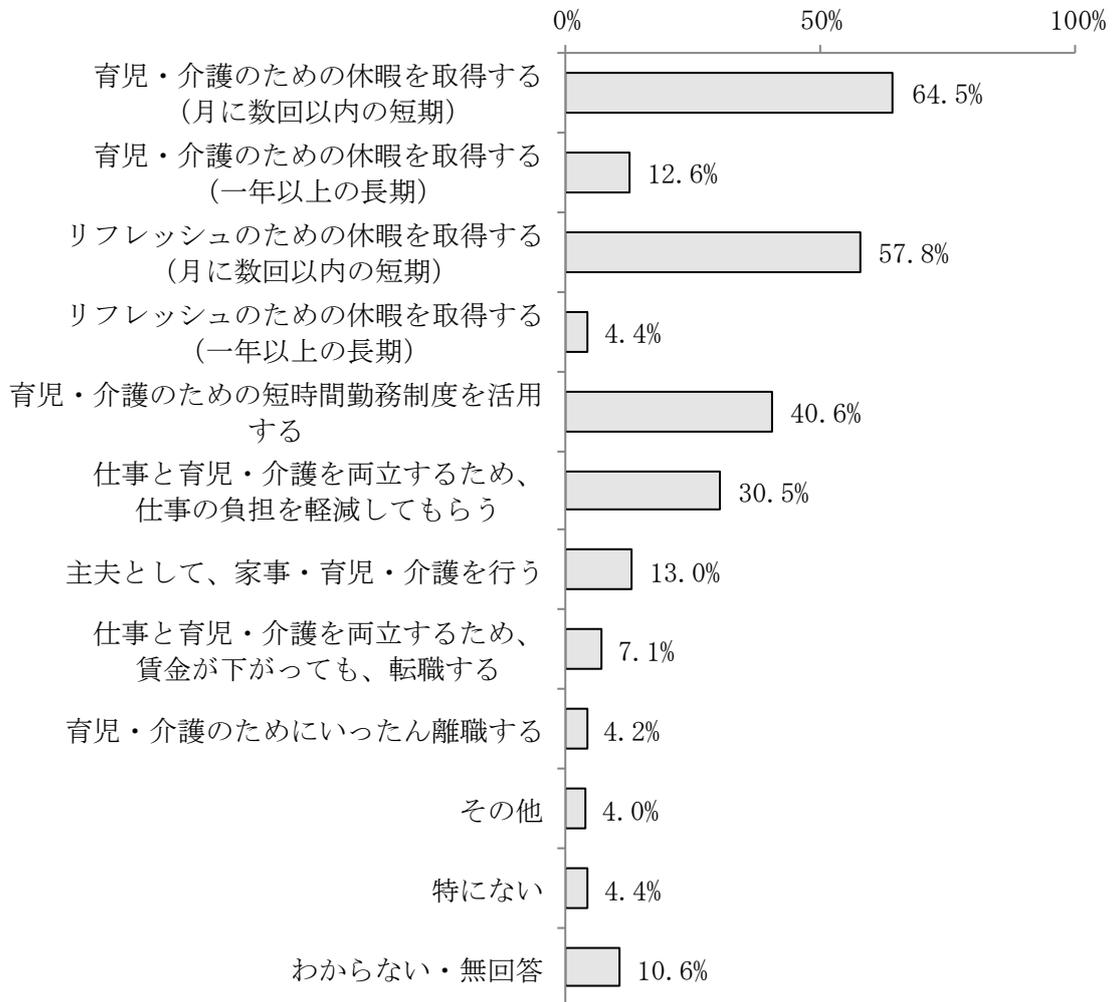
問 6 あなたは、男性が家事・育児を行うことについて、どのようなイメージをお持ちですか。（複数回答）



回答が上位に来た項目は、「子どもにいい影響を与える（69.5%）」、「男性も家事・育児を行うことは、当然である（55.0%）」といった、男性が家事・育児を行うことについて前向きなイメージを持つ内容でした。その一方で、「仕事と両立させることは、現実として難しい（39.7%）」が上位にきています。男性が家事・育児を行うことについて前向きなイメージを持つ人は多くいますが、現実的に「仕事」と「家事・育児」の両立は困難と考える人が少なくないことがうかがえます。

## 【7 男性の柔軟な働き方についての意識】

問 7 男性が仕事以外の生活も重視した働き方を選択することについて、あなたが受け入れられるものはどれですか。（複数回答）



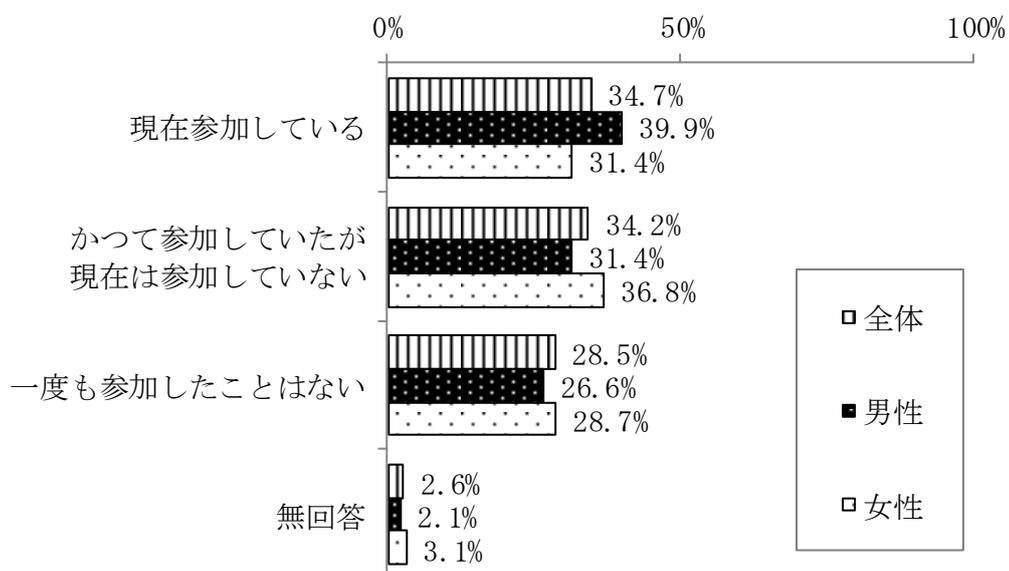
回答数が上位にきた項目は、「育児・介護のための休暇を取得する（月に数回以内の短期）（64.5%）」、「リフレッシュのための休暇を取得する（月に数回以内の短期）（57.8%）」、「育児・介護のための短時間勤務制度を活用する（40.6%）」でした。半数を超える人が、短期であれば男性の育児などのための休暇取得について受け入れられるようです。しかし、1年以上の休暇など他の項目は著しく低い結果となっています。

## 【8 地域活動について】

現在、地域活動に参加している方は約3割で、7割は活動していないという結果になりました。

問 8(1) あなたは、仕事以外に地域で何か活動に参加したことがありますか。(単回答)

### 8-1 地域での活動状況について



	現在参加している	かつて参加していたが現在は参加していない	一度も参加したことはない	無回答	総計
全体	34.7%	34.2%	28.5%	2.6%	100.0%
男性	39.9%	31.4%	26.6%	2.1%	100.0%
女性	31.4%	36.8%	28.7%	3.1%	100.0%
20代	21.1%	23.7%	52.6%	2.6%	100.0%
30代	33.7%	18.1%	48.2%	0.0%	100.0%
40代	43.1%	32.3%	24.6%	0.0%	100.0%
50代	31.3%	45.3%	23.4%	0.0%	100.0%
60代	34.9%	45.0%	18.3%	1.8%	100.0%
70代以上	39.5%	36.0%	14.0%	10.5%	100.0%

○「現在参加している」が34.7%、「かつて参加していたが現在は参加していない」が34.2%、「一度も参加したことはない」が28.5%となりました。

○性別でみると、「現在参加している」と回答した人の割合は男性の方が高くなりました。

○年齢でみると、20代から30代までの若年層では、「一度も参加したことはない」と回答した人の割合が最も高くなりました。さらに、40代以降でも未経験者割合が2割程度という結果になりました。

「現在参加している」と回答した人の割合が高い世代は、40代（43.1%）となりました。

## 8-2 参加したい地域活動について

(2) 今後、または引き続き参加したい地域活動はありますか。(複数回答)

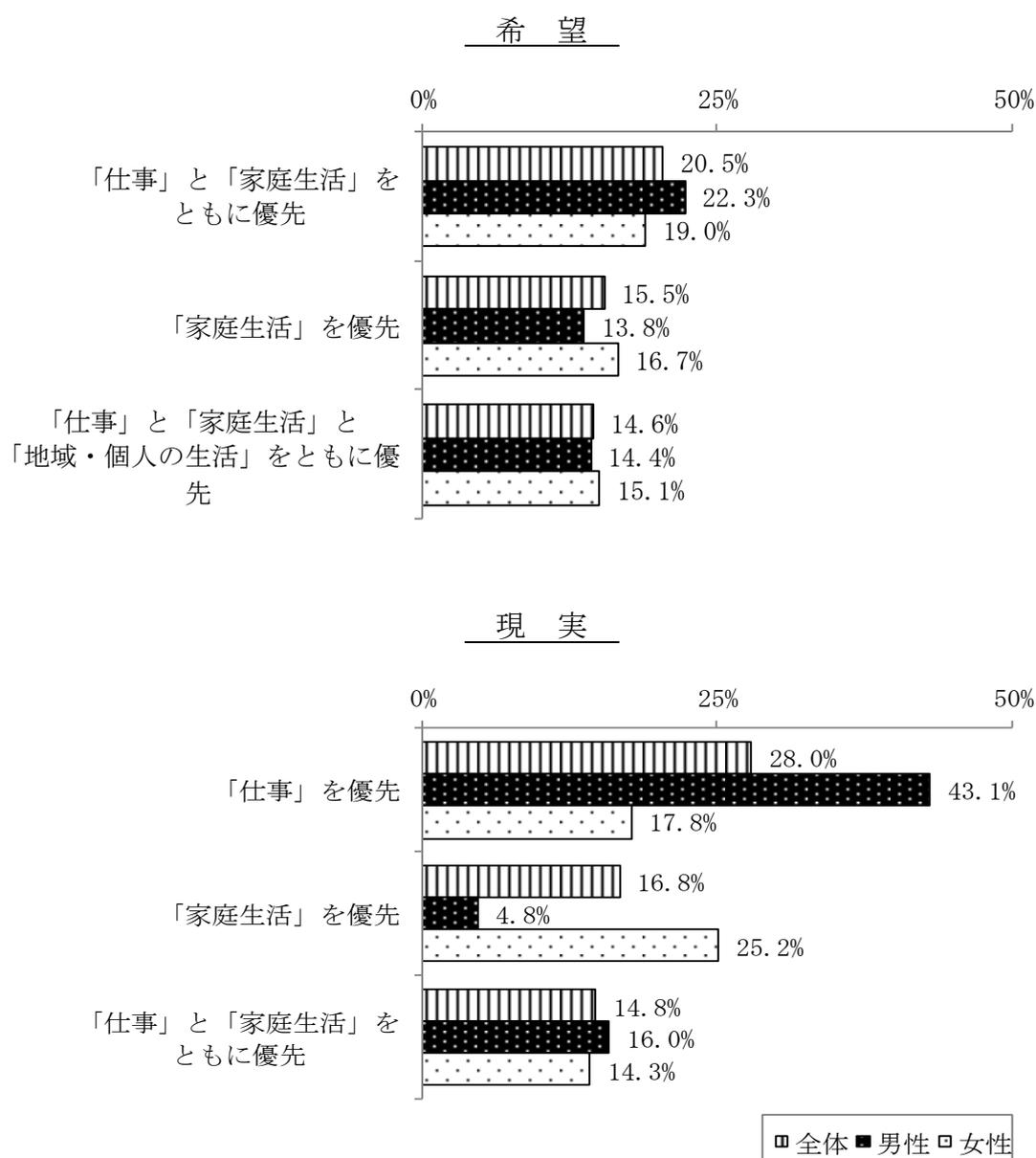
	P T A や子ども会	子どもに関わる活動	いきいきクラブや高齢者の会	高齢者に関わる活動	大字・自治会の活動	防災・防犯活動	ごみゼロ運動など環境活動	教養・趣味などのサークル	(又は女性の会や地域女性団体、男性の会や地域男性団体)	その他	いずれも参加したくない	わからない・無回答
全体	11.0%	21.9%	12.4%	13.2%	16.6%	17.2%	32.7%	30.9%	6.0%	3.1%	11.9%	17.9%
男性	8.5%	21.3%	12.8%	12.2%	26.1%	27.7%	33.0%	23.9%	4.8%	3.2%	14.4%	14.9%
女性	12.4%	22.5%	12.0%	14.0%	10.1%	9.7%	32.9%	36.8%	6.6%	3.1%	10.1%	19.8%
20代	15.8%	39.5%	0.0%	7.9%	0.0%	7.9%	28.9%	18.4%	2.6%	5.3%	10.5%	28.9%
30代	21.7%	38.6%	1.2%	3.6%	3.6%	10.8%	37.3%	20.5%	2.4%	0.0%	14.5%	21.7%
40代	24.6%	30.8%	1.5%	4.6%	24.6%	21.5%	33.8%	32.3%	3.1%	1.5%	12.3%	13.8%
50代	4.7%	17.2%	1.6%	3.1%	21.9%	14.1%	23.4%	31.3%	9.4%	3.1%	10.9%	23.4%
60代	4.6%	11.0%	18.3%	16.5%	20.2%	22.0%	35.8%	38.5%	4.6%	6.4%	11.0%	10.1%
70代以上	0.0%	9.3%	37.2%	34.9%	23.3%	20.9%	33.7%	38.4%	11.6%	2.3%	11.6%	16.3%

最も回答の多かった活動は、「ごみゼロ運動など環境活動」でした。

## 【9 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」への関わり方について】

問9 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度についてお伺いします。あなたの希望と現実に、最も近いものはどれですか。（希望と現実について○は1つずつ。）

- ・「無回答」割合が他の設問よりも著しく多い結果となりました。
- ・仕事以外のことも優先したいと希望している人は少なくありませんが、現実には仕事を優先している人が比較的多く、特に男性はその傾向が強いです。



		「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	その他	わからない	無回答	総計
希望	全体	1.5%	15.5%	1.8%	20.5%	2.2%	7.3%	14.6%	-	4.6%	32.0%	100.0%
	男性	1.6%	13.8%	1.6%	22.3%	2.7%	6.9%	14.4%	-	2.7%	34.0%	100.0%
	女性	1.6%	16.7%	1.9%	19.0%	1.9%	7.8%	15.1%	-	6.2%	29.8%	100.0%
	20代	0.0%	23.7%	0.0%	23.7%	10.5%	10.5%	13.2%	-	0.0%	18.4%	100.0%
	30代	0.0%	16.9%	0.0%	36.1%	0.0%	6.0%	20.5%	-	2.4%	18.1%	100.0%
	40代	1.5%	20.0%	1.5%	29.2%	0.0%	4.6%	23.1%	-	0.0%	20.0%	100.0%
	50代	3.1%	21.9%	1.6%	17.2%	1.6%	3.1%	15.6%	-	4.7%	31.3%	100.0%
	60代	0.9%	12.8%	1.8%	12.8%	2.8%	8.3%	13.8%	-	4.6%	42.2%	100.0%
	70代以上	3.5%	5.8%	4.7%	9.3%	2.3%	10.5%	4.7%	-	12.8%	46.5%	100.0%
	H26県調査	7.2%	25.9%	3.0%	31.3%	2.6%	10.3%	14.6%	1.1%	1.9%	2.1%	100.0%

現実	全体	28.0%	16.8%	1.1%	14.8%	2.0%	2.2%	2.2%	-	6.0%	26.9%	100.0%
	男性	43.1%	4.8%	1.1%	16.0%	2.1%	1.1%	1.6%	-	4.8%	25.5%	100.0%
	女性	17.8%	25.2%	1.2%	14.3%	1.9%	3.1%	2.7%	-	7.0%	26.7%	100.0%
	20代	39.5%	15.8%	2.6%	18.4%	2.6%	0.0%	2.6%	-	2.6%	15.8%	100.0%
	30代	28.9%	24.1%	0.0%	20.5%	1.2%	1.2%	2.4%	-	8.4%	13.3%	100.0%
	40代	36.9%	15.4%	0.0%	27.7%	1.5%	0.0%	1.5%	-	1.5%	15.4%	100.0%
	50代	43.8%	12.5%	1.6%	10.9%	6.3%	0.0%	3.1%	-	3.1%	18.8%	100.0%
	60代	22.9%	14.7%	2.8%	13.8%	1.8%	2.8%	2.8%	-	3.7%	34.9%	100.0%
	70代以上	11.6%	16.3%	0.0%	3.5%	0.0%	7.0%	1.2%	-	14.0%	46.5%	100.0%
	H26県調査	39.2%	22.3%	2.3%	18.2%	3.0%	5.3%	3.5%	1.2%	3.1%	1.8%	100.0%

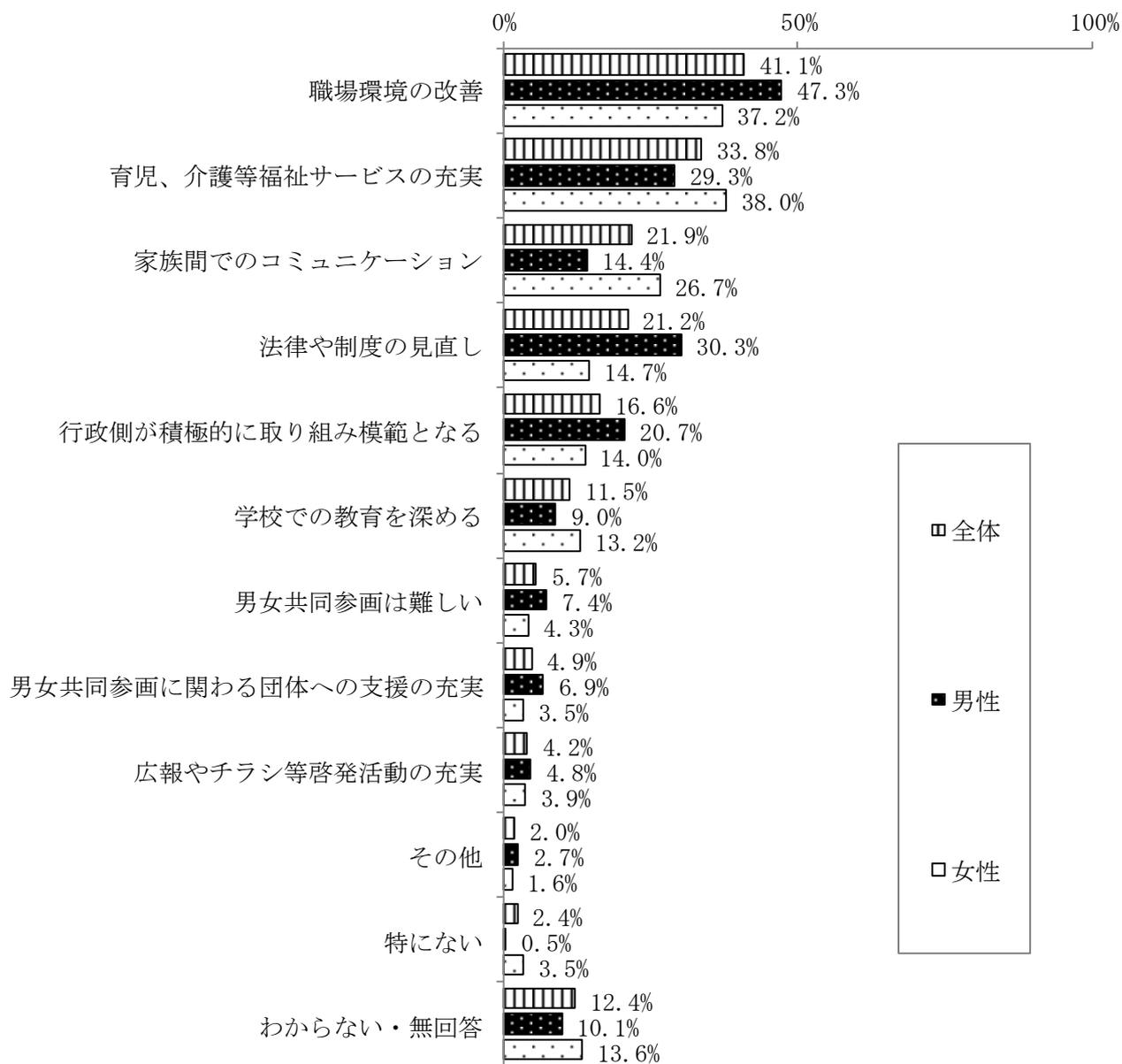
○結果の集計では、「希望」と「現実」の各項目について複数回答の場合は、「無回答」に含めています。集計の結果、無回答者割合が 32.0%となり、有効回答数が他の設問よりも著しく減少しました。回答の仕方が分からない人が多かったと推測されます。

○希望としては、“「仕事」と「家庭生活」をともに優先”が 20.5%、“「家庭生活」を優先”が 15.5%、“「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先”が 14.6%を示しました。性別で大きな差異はありませんでした。

○現実として最も回答者割合が高かったのは、“「仕事」を優先”で 28.0%を示しました。希望ではわずか 1.5%でしたので大きな差が出ています。特に、男性はこの割合が最も高く（43.1%）、女性（17.8%）を大幅に上回りました。

## 【10 男女共同参画社会実現のために必要なこと】

問 10 男女共同参画社会の実現のために、今後どのようなことが必要だと思いますか。(2つまでに○印)



最も求められていることは「職場環境の改善 (41.1%)」でした。問4でも「職場」は、性別による不平等感が強い結果となっており環境改善が強く求められているようです。次に「育児、介護等福祉サービスの充実 (33.8%)」が挙げられました。

○その他で寄せられた意見

意見の内容	件数
意識改革や教育について	5
金銭面で困難	1
その他	3
合計	9

- ・この国の長い歴史から180度考え方を変えないと無理。
- ・子供の性格、家族の状況に合わせて、仕事を選び、無理のないようにしていけばよいと思う。

## 【11 寄せられた意見・要望】

20代	男性	個人の意識で左右される部分が多いので、今回のようにアンケートを出したり、町民を集めて話をするなど意識を高める事が大切だと思います。
20代	男性	子供がいる家庭で男女両方が働く場合は、どうしても保育園などの育児サービスをする施設が必要になってくる。そういう施設を増やしていかないと共働きや男女平等の雇用も難しいと思います。 育児休暇にしてもまだまだ会社の理解を得られていないのが現実なので、会社の意識を変えることも必要だと思います。
20代	女性	家事や育児を男女共に平等に行うためには、共働きである場合、職場の理解や協力は必ず必要となるように思います。（周りの職場の方々への負担が増えるのは避けたいですが・・・）個人や性別の差による、それぞれの向き・不向きはあると思いますが、子どもとかかわる職に就いている身として、“男だから”“女だから”という考えを子供たちに植え付けてしまわないようなかかわりをしていきたいと日頃から思っていますが・・・本当の意味での“男女平等”って難しいですね。が、努力はしていきたいです！！
20代	女性	男性の育休や時短勤務が理解されにくい。周りからの理解が得られるよう、何かしらの対策をお願いします。
20代	女性	現在は男性（父親）にも育児休暇がきちんとあるため良いと思います
20代	女性	男女平等は不可能だと思います。 そもそも男と女では違う生き物であり男性にしかできないことや女性にしかできない事があります。 数十年前よりも女性の社会進出が目立つようになり、男性側も「女も働け」と思うようになった人が多く、妊娠出産の後、働かずに主婦をする事が「お気楽でいいね」「奥さんも働けばいいのにね」という見られ方が増えた。 また大卒で真面目に働いても年収300万程度で結婚に踏み切れない人が多い。
30代	男性	男女共同参画に関して、国が主導して進めていくよりも、もっと地方から動きを出していくべきと感じます。町政としては、モデルケースとなれば国からの助成も頂ければと思うので、具体的に町民を巻き込み進めてみてはどうでしょうか？
30代	男性	家庭個々のお仕事の内容などで男女共同参画社会の実現は難しいかもしれませんが、町民が子どもを育てやすく、住みやすい街になるように期待しています。
30代	男性	3歳児検診を午後一番で実施せず、朝一番もしくは夕方に実施するなど仕事と両立できる時間帯にしてほしいです。

30代	男性	職場でも女性を男性と同一視して、平等に仕事をさせようという動きとなっていますが、現実なかなか難しいです
30代	女性	必要な時に保育園入園を断られ諦めざるを得なかったのに、そのすぐ後に正職員で働いている近所の子が入園し、町の対応に失望した。必要な人から入園させ、正職員でも空きがない場合は町立以外にするべき。町の対応自体が既に不平等。結果男女平等でありたくてもできない。
30代	女性	子どもたちを守れない社会に共同参画社会はいらないと思います。小中学校も、子供のことを守るためにあるし、家庭もそう。プライバシーよりも大切なこともあると思う。親の仕事について、家庭について、出来れば子供たちの声も聞き取り下さい。
30代	女性	男性が育児をしたらイクメンと呼ばれるけど、女性は当たり前。そういうのがなくなればいいと思う
30代	女性	私の母は専業主婦で、家の事はすべてやってくれる人で尊敬しています。でも、子供には見えませんでした。私が、この40代に近くなりずっと働いて思う事は、「母も外で働きたかったかもな」と。人には得意・不得意があるので、みな外で働け！とは思いませんが、どんな人にも男でも女でも、さまざまなチャンス、機会があればよいなど・・・。そんな社会になるといいなと思います。がんばって下さい。私もがんばります。
30代	女性	働きたいが、保育園に入れる事が難しいので働けない。子育てに影響が出るため、フルタイムではなく、パートで働きたいが、パートに対して子供を預かってもらうのは難しい現実。改善して頂きたいです。
30代	女性	男女共同参画に関して、昔からの地域の特性が強く残る阿久比町では難しいと思います。 子供の数に合わせて今から動くのではなく、もう少し前から町政を見直す必要があったと思う。 仕事をしていたが、支援の充実がないため、諦めざるを得ませんでした。もう少し町民の事を考えて欲しい。
30代	女性	女性が働く事は家庭環境にとってもいいと思います。 子育てでストレスを感じていても働くことで気分転換ができ、子供に対しても愛しく接することができ、一息つくことで心にもいいと思う。
30代	女性	3歳児未満の保育園入園条件を、3歳児以上と同等に緩和すべきだ。これでは、働きながら育児をする母親を受け入れていないのと同じだ。 パートは仕事ではないのか？保険証が独立していなければいけないなど、「3歳児未満の子供がいる母親は正社員以外は働いてはならない」と阿久比町が言っているのと同じこと。 「3歳児までは母親が子育てせよ」と言っている阿久比町が男女共同参画についてアンケートするなど、切手代の無駄使いです
30代	女性	何かやってみたい（立案）と思っても、何をどうしたらいいのか、

		何から始めたらいいのか、わからないので、相談できる所があるといい。あるなら教えて欲しい。
40代	男性	保育士の給料を上げたり、休暇を多くすべき。そして保育園を多くして、待機児童を減らすことは、早急に行政が主導となって行うべき。そうすれば女性も安心して働く事が出来、男女共同参画社会が実現すると思います。
40代	男性	アンケートを集計して仕事を終わりにしないで活用してほしい。
40代	男性	・夫婦で納得して生活していれば、いいと思う。 ・女性だから・・・男性だからではないですが、子どもの一番成長する時期に子育てに関われる社会になるといいですね。
40代	男性	非常に忙しい職場に勤務しているため、それが改善されない限りは難しいです。
40代	男性	色々な企画を計画し阿久比町の活性化に繋がるといいですね。機会があり、協力出来るところがあれば協力したいです。頑張ってください。
40代	男性	法律・制度を見直し、育児・介護サービスの充実を図るなど積極的に行う必要があると思います。
40代	男性	理想と現実がまだ埋まらない、と感じています
40代	男性	赤十字の活動、防災についての訓練等もっと企画してほしい
40代	女性	専業主婦ですが、現在、旦那から経済DVを受けています。半田市には、DVによるシェルターがありますが、阿久比にも作って欲しいです。
40代	女性	現実的に考えると男女共同参画は難しいように思います。男女共に理解しあえた時にうまくいく気がします。又、無理に押し付けるのもどうかと思います。こうでなければいけないということではないのでは。
40代	女性	社会的地位の高い年配の男性の方の意識を変える事が重要だと思います。本気で男女共同、と皆さん考えているように思えません。
40代	女性	男女、心体にそれぞれ特徴があるように、全て、平等という考え方は違うように思う。個々の性格、状況に合わせ、家庭、社会で活躍すれば良いと思う。 結婚をして子供を生んだからには、子供が健全に育ていくために、子供優先に考え、仕事で疲れているから、忙しいからを理由にし、お金と物だけを与えて、育児放棄することは、間違っていると思う。子育てにきちんと責任を持ちながら女性が社会で貢献することには賛成である。
40代	女性	3歳未満児がおります。育児の傍ら仕事をしたいが、フルタイムでは難しいのでパートタイムで働きたいと考えています。 ただ、阿久比町は一時保育制度も実質利用できないし、入所も難しいため子育て世代の夫婦が働きにくいです。 男女共同参画への取り組みとして保育制度の充実をお願いします。
40代	女性	回答が遅れ大変申し訳ございませんでした。男女共同参画自体が、自分の中ではっきりせず、少々回答しづらかったです。

40代	女性	半田市、常滑市、東浦町などには病児保育があります。阿久比町にはなく、勤務先から遠いため預けることも難しい時がある。 働くママとしては、早急に制度を作ってほしいと思います。
50代	男性	子供が小学生当時にひとりっ子であるために、教員から差別を受けた。改善を求めたが、理解されなかった。教員の業務も大変であることは、理解しているが、個人の考えを子どもに押し付けることが、後々まで影響することを知ってほしい。教育委員会から教員に対する教養を願う。
50代	男性	行政の行いも大切であるが、地域ごとでの役場や市役所なども積極的に取り組んでいくべきだと思っています。そのことをご検討して欲しいと思います。よろしくお願いします。
50代	男性	アンケート調査に関し、もう少しパンフレット等の資料を同封し、アンケート者に対しての知識向上をされると良いと思う。 男女共同を推進したいのだからアンケートをするものと思うので。
50代	男性	保育園の義務化と保育料の平等化
50代	女性	私たちの年代は男女共同参画には賛成ですが、子育てについては早くから保育園に入れて保育士さんが子供を育ててる気がします。（子育てを放棄しているように見えてしまいます）
50代	女性	前にもアンケートありましたが、いつになったら女性は働きやすくなるのでしょうか？
60代	男性	・物理的に差が出る　・女性としての特異を生かす参画
60代	男性	男女が公正かつ、平等な社会を望みます
60代	男性	近頃乳幼児を保育所に預けて働きたい若い女性についてのTV報道が多く見られます。保育所の不足についてが主な内容ですが、働く目的についてはあまり伝えられていない様に思います。共同参画が進みできるだけ長い時間母親と接した方が良い乳幼児期を保育士さんと過ごした子供たちがどのような社会を築いていくのか心配です。
60代	男性	・法律の整備・子育て支援の強化（物資両面）・高齢者施設の充実（物、人、金）
60代	男性	設問の内容で何を知りたいのか、はっきりとしたイメージが浮かばない。
60代	男性	男女共同参画の本当の意味は何でしょう。すべての事を男女平等にすることだと思っているように思いますが、本当は男性、女性の長所を生かし合い、より良い環境、社会をつくっていくことだと思います。
60代	男性	本人だけの希望だけではいかんともしがたい。社会や職場などの環境に多く左右されるので、そこが変化しないと無理だ。
60代	男性	男女差は必ずあります。ですので「共同」という呼称がふさわしくなく固定化された考え方に向かうと思います。寄り添い、助け合い、それぞれの個性を見極め、高める教育が必要だと思います。
60代	男性	課題がもう明らかになってきているのだから、次は少しずつでも確実に片付けて行くことだと思う。

		言ってるばかりで実行が少ないと感じる。
60代	男性	本来は、男は外、女は内と思う。幼い子を抱きしめ、抱きしめられた思い出は一生消えない。 ただ、今は生きていくのにお金がかかりすぎ、女も外に出なくてはならない。 ただ、男には男の能力、女には女の能力があり、人間としての権利は同等であるが仕事面での平等は無理と思う。
60代	男性	男女共同参画に関しては別に悪い事ではないので色々な意見（違う目線）が出て行事等が色々な面でよくなると思います、男女平等は現実的には無理な所が（年寄りの考え方、子供がいる女性）あると思います。
60代	女性	子供を育てる時、夫の言動、家のローン、学費・・・。経済的にも精神的にも色々な事がありました。今は、子供達も家庭を持ち孫にも恵まれ夫の年金で暮らしております。難しい事は分かりませんが、家庭の中の会話、思いやりが不足しているのではないのでしょうか。 親も世間も人を数値で計ります。よく「昔とは違うのだから」という言葉も聞きます。それは違うと思います。男女共同参画も女子差別撤廃も良い事だと思いますが、忘れてませんか。子供を育てる事も大事な、大切な大きな大きな事だという事を。家庭での思いやりや会話は判断力のある大人になりますよ。目先の数値で人を区別する親にならないためにも、仕事を持っても良し、専業でも良し、もっともっと子供の日々の様子をしっかりと見ていて下さい。変化に気づく親になるよう、家庭も学校もとても大切だと思います。
60代	女性	女性が同等に働くためには、職場の制度、育児の施設の充実、地域での援助等、今以上に必要と思います。介護も同じです。お助け隊があるといいのでは？
60代	女性	自分の父親は外で働き、母親は専業主婦だったので、私は結婚して、子育てが落ち着いてきたら、外で働きたいと思っていました。いろいろ勉強になりました。
60代	女性	男、女というよりも個人を大切にする社会だといいなと思います。
60代	女性	阿久比町は行政も地域も男女平等からはかなり遠い位置にあると思う
60代	女性	男女共同参画に対しては、良い事だと思いますが、様々な環境にて共同は厳しい、年齢条件等、問題とすることが多い。
60代	女性	男女それぞれの持ち味を出し得意・不得意があると思うので常々話し合いで生活していくと良いと思います
60代	女性	昭和の私達には両親は長男が見る、親も当たり前と自分の置かれた立場に直視してきた悲しい現実だった

60代	女性	福祉（保育・介護）サービスが充実してないのに、男女共同参画とは無理な話。 広岡浅子さんは、経済的に恵まれている。 生活するのに精一杯ではそれどころではない。
70代	男性	まだまだ認識が低すぎる。もっとPRを。
70代	男性	女の出る幕、場合では無い！と昔は言っていたが、現在は、むしろ逆になり、女性の言動こそ、社会が求めていると思う。女性の考え方の柔軟性やファジー（論理的でなく感覚的）な対応が諸問題の解決につながっていると思う。
70代	男性	私は男女共同参画社会があらゆる面で平等とか均等と言う言葉に踊らされている様な気がしてなりません。まず古いも若きも意識改革が必要です。例えばアンケートに有る様な質問で回答者達からの一番関心度が高い物を目指すと言う事なら、それは間違いと思います。全ての人があらゆる面で均等、平等なんて有り得ません。生い立ち、環境、生活地域、職場、収入、家族構成も違う物を全て同じ尺度で考える必要は全くナンセンスだと思います。まず阿久比町を目指す事は、阿久比町と言う行政が手を付けられる、男女共同参画は何か、町が法律的、財政的に何が出来るかを、絞り込んで最初に手を付ける物が何かを選んで、その携わる個人、企業、公的機関に町のトップが直接丁寧に説明すべき事が肝要かと思います。県、国、国会議員等に頼るのが一番くだらない事。阿久比町は「これだと」言う男女共同参画を目指して欲しいと思います。
70代	男性	参画に当たって差別を感じる（知り合いだから、社会的地位が有るから、金持ちだから、等々）
70代	男性	広い分野での問いなので、一概にこうだという答えが出せない。条件付きの回答しか出ない気がする。
70代	女性	たくさんの方が参加できる社会を！安心して暮らせる、そして人を思いやる心、豊かな街（町）になる様、なれる様、努力をしましょう。
70代	女性	体形から見ても男らしい人がいなくなった。若い人
70代	女性	これから人口が減少していくうえで男女が平等に仕事、育児に参加していく事が必要
70代	女性	私共夫婦は80代と70代の二人暮らしです。要支援の認定を受けた主人と日々寝食を共にする内に主人にも家庭生活の一部分を担ってもらっていたらと今反省させられます。男性も大いに家庭の中に入るべきです。
70代	女性	各々の個性があるので画一的に男女共同といわれても問題がおこる場合があると思います。基本的には男性、女性それぞれ持ち合わせた長所を生かしてゆける社会が、安定した社会となると信じて未来の人達に託していけたら良いと思います。
70代	女性	なんでも平等という考えには賛成出来ません。男女の適性を考慮した上での協力は必要でしょう。

		特に介護、育児はお互いに努力。(男女共職場も)
70代	女性	私は20年前に夫に先立たれ今もうつ状態。途中から長男家族と同居しておりますが会話はありません。
無回答	無回答	アンケート記入の時間が無駄です。無作為に送付はやめて下さい。忙しいです。この様なアンケートより、阿久比役場建設に費用を使いすぎ。町民税が高すぎる。公務員の人員削減すべき。町民は皆思っています。男女共同参画のアンケートなど二の次です。

※個人を特定し得る内容は掲載していません。

# 調査票

